GX率先実行宣言

社会全体のGX加速化に向けて、GX製品・サービスの早期社会実装が極めて重要であることから、当社は自らのScope 1、2の削減取組に加え、これらの製品・サービスが有するGX価値の評価を通じてGX製品の社会実装に積極的に貢献することで、サプライチェーン全体でのGXを推進することを宣言します。

1.早期の社会実装に貢献するGX製品

当社は、以下に関連するGX製品の早期社会実装に貢献します。

a.	分類	産業競争力基盤強化商品
	対象	電気自動車等
b.	分類	GI基金支援技術を活用した製品
	対象	CO2の分離回収等技術開発

2.具体的な行動内容

当社は、前項で選択した事項に関連して、具体的には以下の行動を推進することで、GX製品の早期社会実装と社会のGXに貢献します。

a.	電気自動車等
対象行動	宣言対象製品の調達・購買
概要	当社が使用する大型車両・重機を除く業務車両について、EVをはじめとする環境対応車に積極的に切り替えることにより、Scope1・2の削減を図るとともに、環境対応車の早期社会実装に貢献します。

b.	CO2の分離回収等技術開発
対象行動	研究開発・実証
概要	当社が所有するバイオマス発電所においてCO2の分離回収装置の開発・実証に取り組んでいます。 当該技術を活用してCO2排出量の削減・分離回収コストの低減を図り、カーボンニュートラルの実現に貢献します。

3.サーキュラーエコノミーの推進

当社は、サーキュラーエコノミーを推進しGXを実現するため、自らのサーキュラーパートナーズ（CPs）への参画や、製造業者と廃棄物リサイクル業者との事業連携を自ら進めるとともに、再生材の調達を積極的に検討することによって、新たな資源の使用や消費を最小限に抑え、既存の資源の価値を最大化する経済システムの構築を目指します。

4.温室効果ガス削減目標の設定

当社は、サプライチェーン全体でのGXを推進すべく、Scope3の削減に向けて以下の目標を設定します。また、第2項に記載した行動内容が、Scope3の削減に対してどのような効果があるかを以下に示します。

※ 第2項に記載した行動内容がScope1,2の削減に資する場合は、Scope1,2の削減に関して以下に示します。

a.	電気自動車等
削減対象	Scope 1＋2
目標年度	2030年度
基準年度	2021年度
目標削減率	46%
削減目標における選択対象の位置づけ	当社が使用する大型車両・重機を除く業務車両を、EVをはじめとする環境対応車に積極的に切り替えることにより、スコープ1・2の削減目標（2030年度までに2021年度比46%削減）の達成に直接寄与します。

b.	CO2の分離回収等技術開発
削減対象	
目標年度	
基準年度	
目標削減率	
削減目標における選択対象の位置づけ	

5.GX製品の社会実装促進に向けた目標の設定

当社は、前項に掲げた削減目標に基づき、以下の時間軸・定量的目標に沿って、第1項で選択したGX製品・技術及びそれらから派生するサービスの社会実装に貢献します。

a.	電気自動車等
目標年度	
定量的目標	

選択対象に関する定量的目標の概要	

b.	CO2の分離回収等技術開発
目標年度	
定量的目標	
選択対象に関する定量的目標の概要	

6.適用範囲

当宣言は、以下の範囲まで適用されます。

適用範囲	自社単体

当社は、この宣言に基づいてGX価値を評価し、GX製品の早期の社会実装に貢献することで、サプライチェーン全体でのGXを推進してまいります。

2026/9/17

株式会社東京エネシス

代表取締役社長執行役員　眞島俊昭